

今回で第10回となる「日野川への想いを語る会」がこのほど、日南町総合文化センターと日南町役場で開催されました。第7回日野川フォトコンテストの入賞者表彰式と特別講演が行われ、意見交換会では、今年台風上陸が史上最高の10個を記録し大規模な水害が全国的に多発したことから「風水害への備え」をテーマとして、日野川流域の市町村長と河川を管理する鳥取県と国土交通省日野川河川事務所が様々な取り組みや想いを紹介して、意見交換が行なわれました。



～意見交換会 テーマ「風水害への備え」～

米子市



中井建設部長

ハザードマップと防災マップを作成して住民に配布し、災害に対する意識の高揚に努めています。対策本部をあらかじめ定め、水害のおそれのあるときには情報連絡経路に基づいて住民に周知し、最寄りの避難施設に避難していただくようにしています。米子市は全市に防災無線をすべて完備していますので、緊急時のときの伝達方法は十分ではないかと思っています。

訓練等は、鳥取県西部地震を教訓として年に1回、校区を定めて火災等の訓練も含めながら避難施設への避難訓練を実施しています。

要介護者と言われる高齢者を把握する名簿を福祉部局でつくっていますが、災害弱者の対策として災害時にその名簿を使えるシステムがまだ構築されていない状況にあります。現在、国において避難支援ガイドラインが考えられているので、その考え方を基本に自主的な申し出や本人の同意によって避難対象者をリストアップしながら、緊急の場合に限り活用できる方法はないかと検討しているところです。

日吉津村



石村長

先日の台風時の失敗例として、防災無線の受信機の乾電池が寿命がきたままで、換えていなかった家庭がありました。これは村民に改めて徹底をしていく必要があります。洪水ハザードマップを全村に配布し、洪水の際には1メートルから2メートルの浸水をするということを、改めて自治会へ説明しています。全村が平坦地なので仮に局地的な集中豪雨被害を想定したときに避難路が絶たれてしまうということもありうるので、非常に難しい状況が出ると思います。

災害に対する行政と住民との一体的な取り組みについて方向を定めようと、この11月中旬に図上による防災訓練をいたしました。行政、福祉協議会、公共施設、小学校、保育園とそれぞれ役割はどうするのか、自治会はどう対応するのかとワークショップをいたしました。皆さん初めての経験で戸惑いもありましたけれども、さまざまな意見が出ましたので、今後も災害の対策について進めていきたいと考えています。

岸本町



河合町長

おかげさまで日野川の方は堤防がほとんど改良していただきまして、日野川に限っては、この間の台風23号のときも、少し水が出たかなあという感じで庁舎から眺めさせていただいております。町内を流れる河川につきましても、かなり整備が進んでおりますので、今は雨が降りましても、浸水はほとんどありません。

このため平成12年の地震以降、地震にどう対応していくかということは常々話はしていますが、水害についてはあまり検討したことはありません。

以前、平成10年に会議で溝口へ行きました際に、国道のぎりぎりのところまで水が来ていたことがありました。今度は溝口町と一緒に伯耆町になりますので、溝口の丸合から少し上流の部分について、新しい町長によく注意してもらおうように言っておかなければならないと考えています。